

陸沢町 表堰・小仏堰・尾張堰 ため池ハザードマップ

▶ 氾濫シミュレーションについて

本ハザードマップ作成にあたり、万が一の事態でため池が決壊した場合、最大でどの程度の被害範囲となるかを知るために、最悪の状況を想定した被害予測を行いました。

- (1) この図は、表堰・小仏堰・尾張堰（ため池）が決壊し、全ての水が下流へ流れてきた場合の浸水想定区域と、当該区域が浸水した場合に想定される水深を示したものです。
- (2) この浸水想定区域は、表堰・小仏堰・尾張堰（ため池）が満水状態で大雨又は大地震等により決壊した場合の状況を、シミュレーションにより求めたものです。
- (3) このシミュレーションの実施にあたっては、河川の氾濫、内水（河川に排水できずに氾濫した水）氾濫、想定を超える降雨による氾濫等を考慮していませんので、この浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

▶ 氾濫シミュレーションの条件

シミュレーションは、最大規模の氾濫を想定しています。

決壊時の水位は満水位とし、大雨や大地震等により最大決壊断面に瞬時に達し、その後全貯水量が流れ出すとしています。

決壊を仮定した地点は、流出量の大きくなる堤防の高い場所とし、氾濫水の追跡計算は、地形を5mの格子で表したモデルを用いて行っています。

▶ ため池の役割

ため池は、雨が少なく、大きな河川から離れた地域等で、農業用水を確保するために、水を貯めておく人工的な池のことです。

水辺空間の形成

都市化の進行や開発によって緑や水辺空間が減少する中、水に親しむことのできる場所を提供しています。

農業用水としての役割

雨が少ない地域では、古くから農業用水をため池に貯め、利用しています。

防災としての役割

適切に管理することにより、大雨時の洪水調節や、火災時の防火用水としての役割があります。

▶ ため池の決壊メカニズム

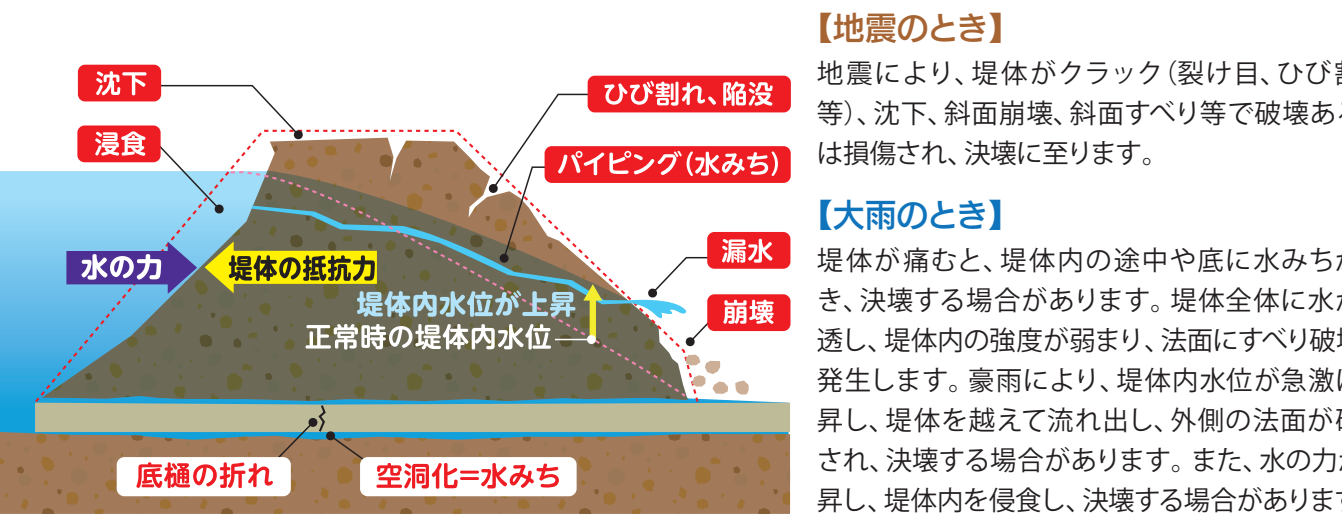
ため池の決壊は、大雨や地震、ため池の老朽化により発生する可能性があります。



大雨のとき
集中豪雨や長雨により、ため池の水位が上昇し、堤に浸透する水の量が増え、ため池決壊の危険性が高まります。また、流木などにより、ため池の余水吐がふさがれると、ため池が満水となり、水が堤からあふれ出し、堤が浸食され、決壊に至るおそれさらに高まります。

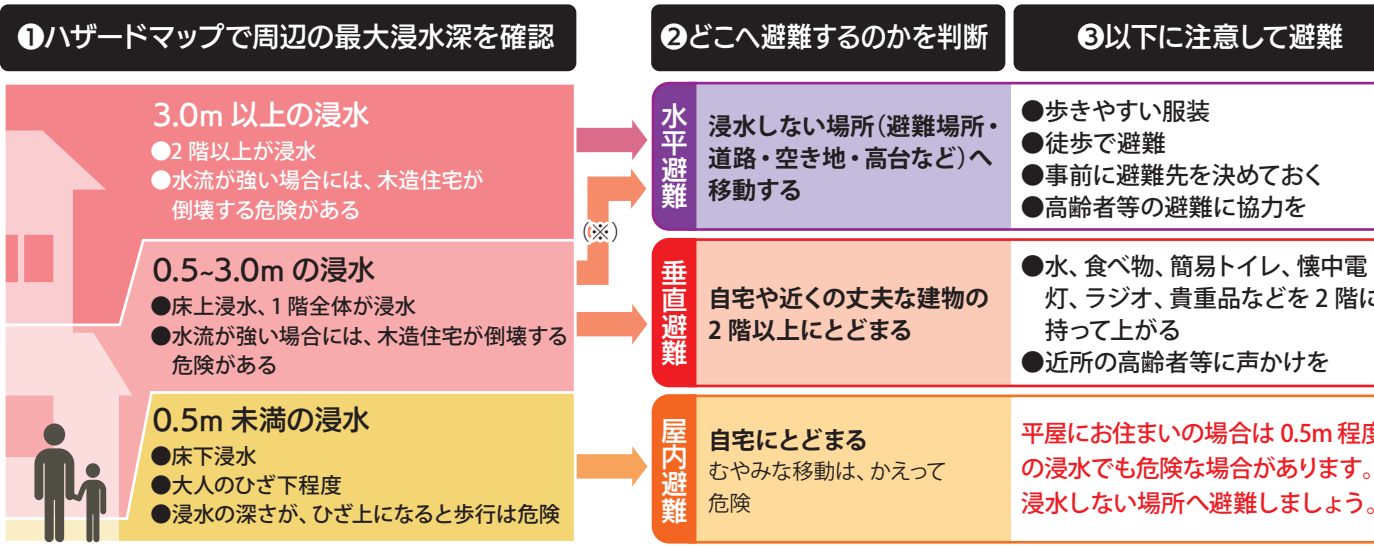
地震のとき
大地震では堤に亀裂や漏水、沈下が生じる可能性があり、強度低下により、水圧に耐えきれず決壊することがあります。また、その後の余震で決壊することがあるため注意が必要です。

▶ ため池が危険なとき

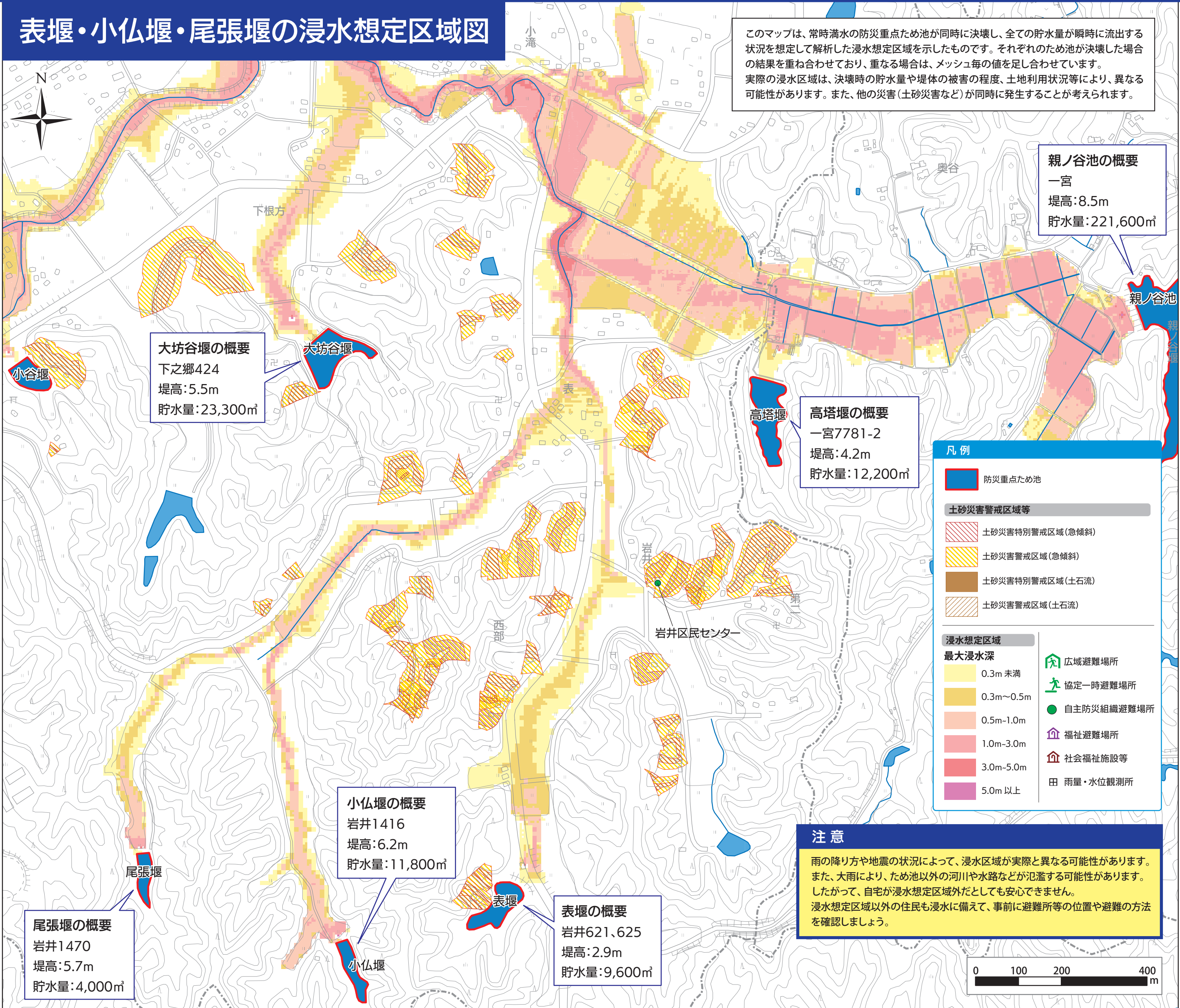


▶ 浸水の深さと避難行動

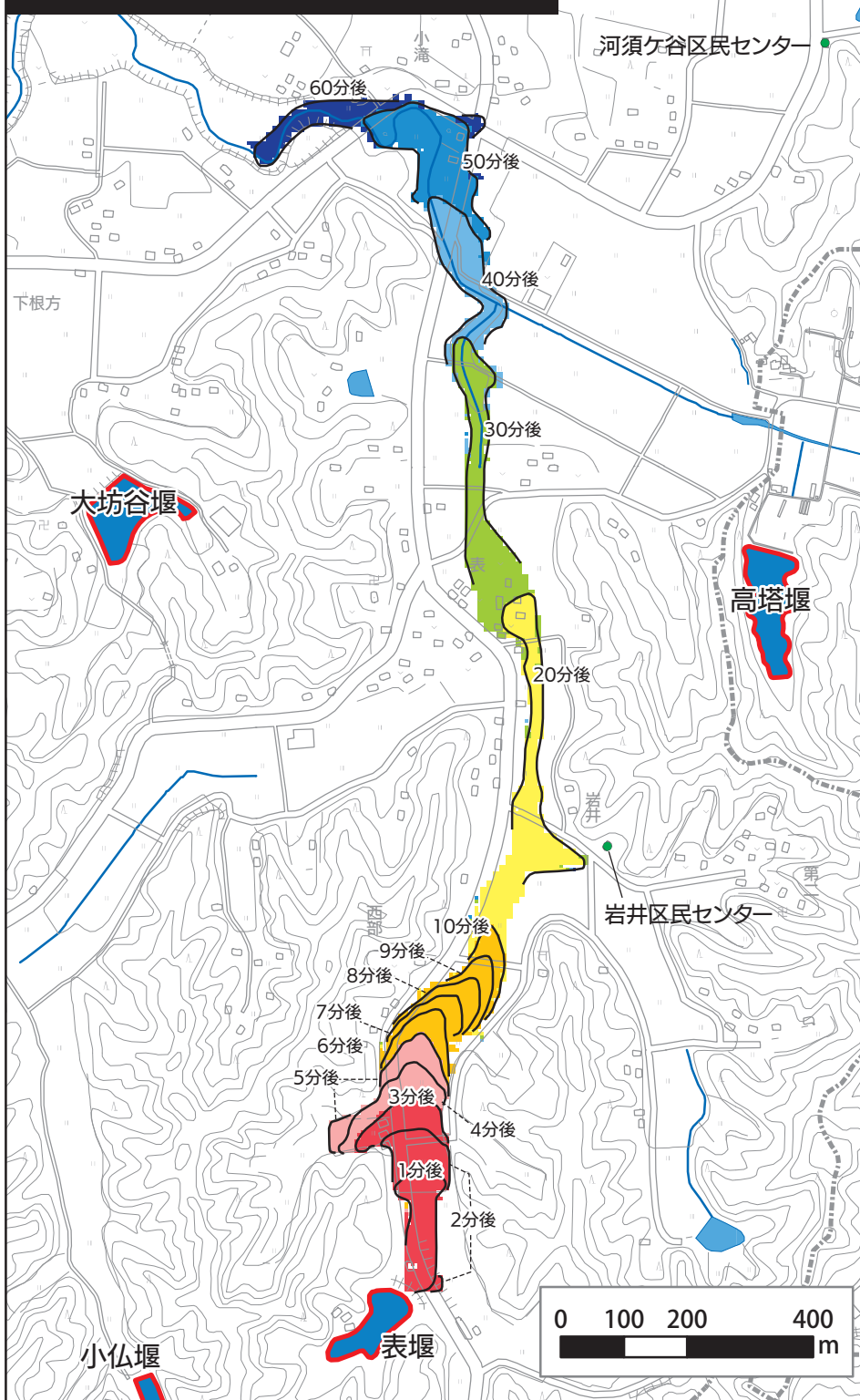
ハザードマップに示す浸水の深さを参考に、基本的な避難の仕方を考えましょう。ため池が決壊すると、短時間で浸水する場合があります。状況に応じて判断し、身の危険を感じたら速やかに避難して下さい。



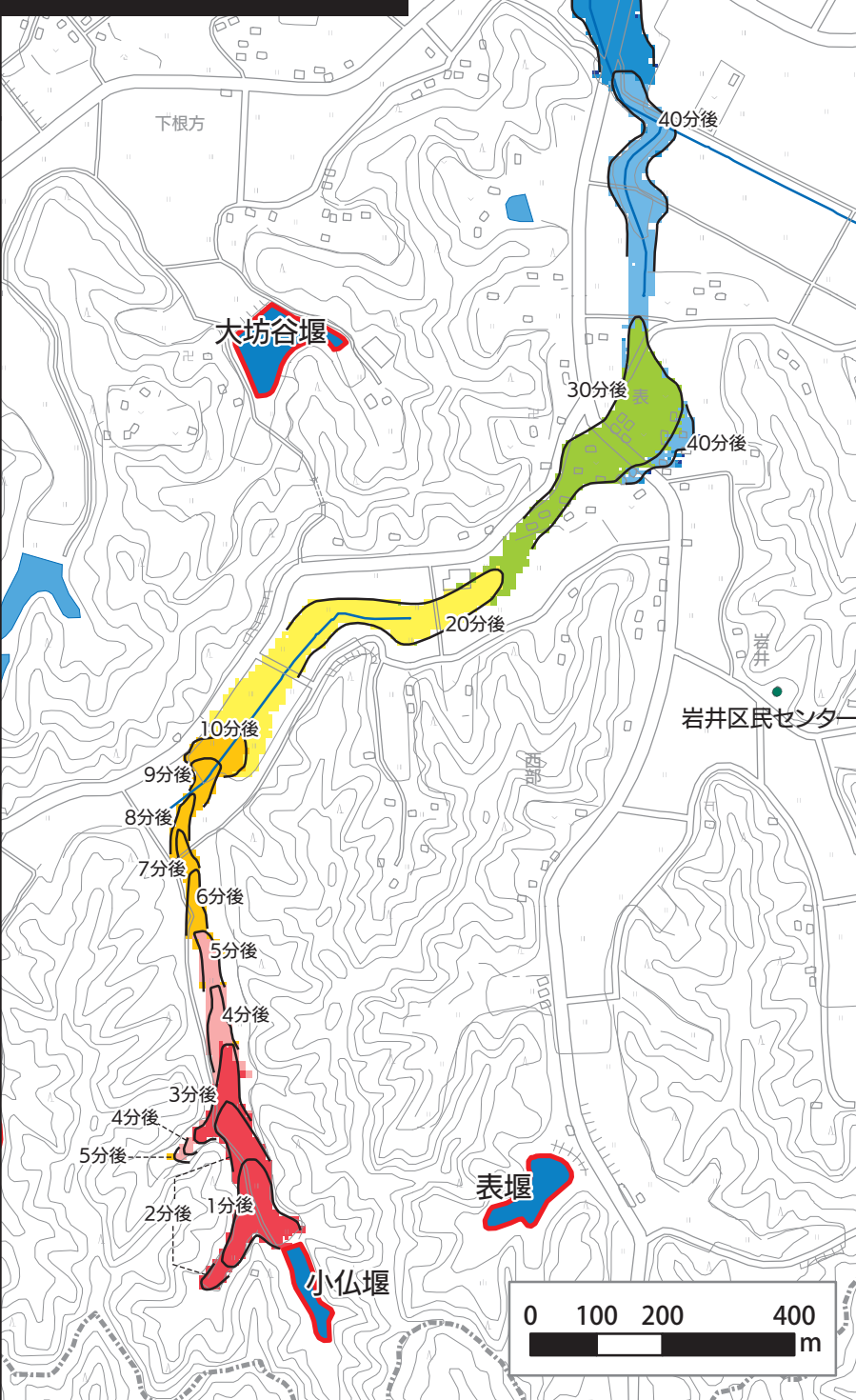
表堰・小仏堰・尾張堰の浸水想定区域図



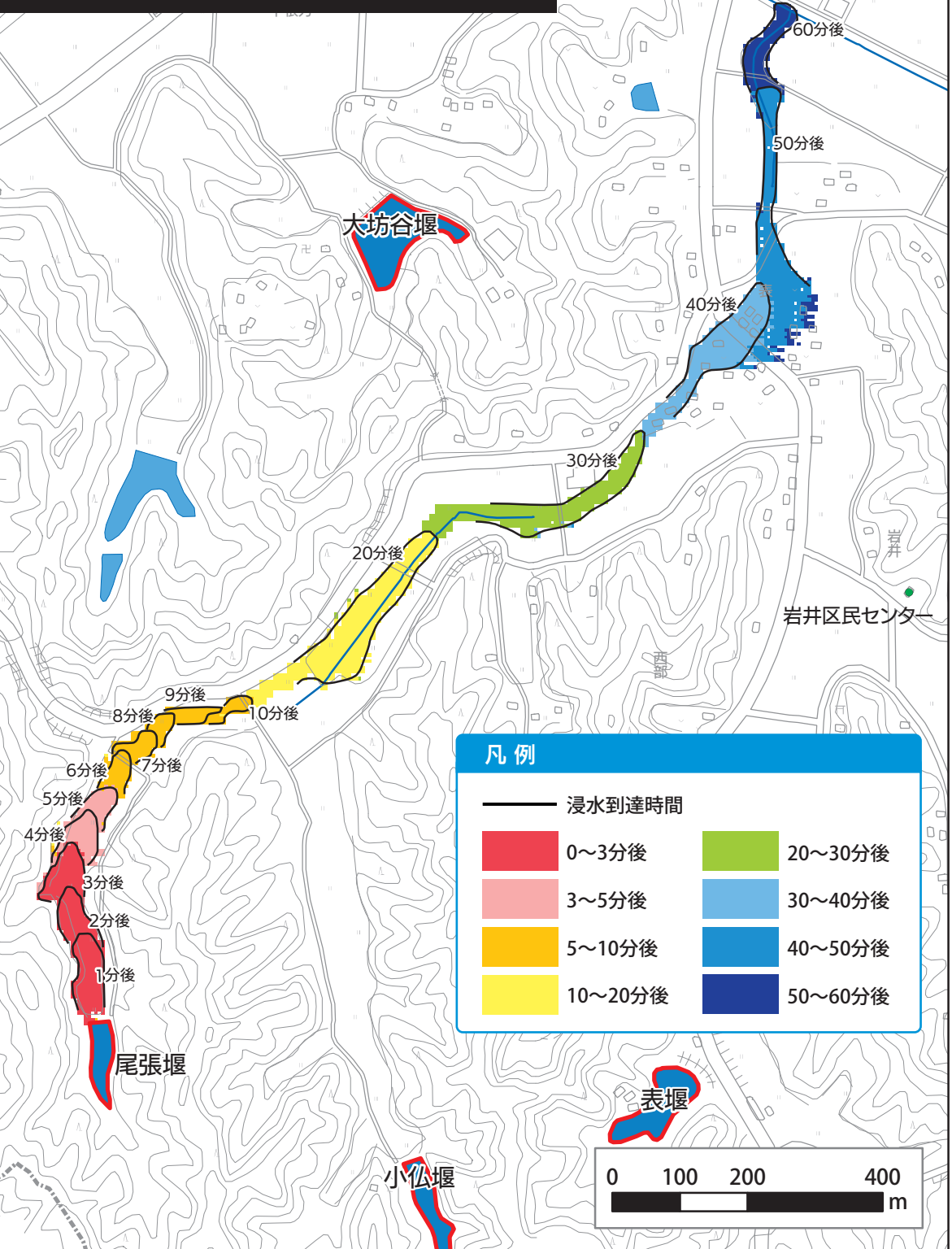
表堰の浸水到達時間図



小仏堰の浸水到達時間図



尾張堰の浸水到達時間図



▶ 避難するときの注意すること

● ため池決壊以外の災害も意識する

ため池が決壊した場合、周辺に下記のような災害も発生している可能性があるため、注意しつつ避難してください。



● 危険な場所から離れよう

災害が発生したら、避難する際は、できるだけ広い道を選び、畑や水路から離れて避難しましょう。

● 浸水を見かけたら、速く離れて、無理をしない

避難できる水の深さの目安は膝までなので、無理な移動は避けましょう。

● 浸水した場所では、できるだけ高い場所を目指しましょう

浸水により、安全な場所へ移動できないときは、自宅の2階や、できるだけ高い場所を目指しましょう。

▶ 避難の心得

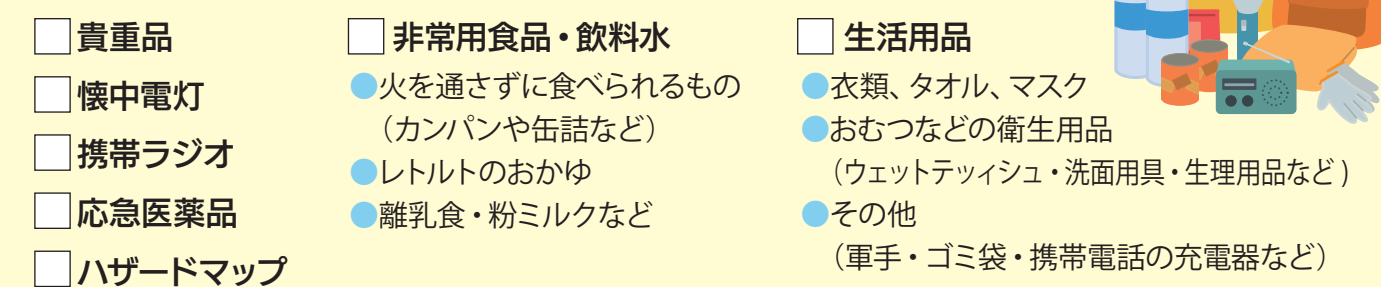


洪水のとき



▶ 非常持出品

避難時に持ち出す必要最低限のものをまとめ、すぐに取り出せる場所に保管しておきましょう。
※重さは**成人男性で15kg、成人女性で10kg**程度までを目安とし、避難時に両手が使えるよう**リュックサックタイプ**のかばんを使用しましょう。



▶ 災害時の安否確認方法

☎ 災害用伝言ダイヤル 171

NTTでは、災害時に電話で安否確認ができる「災害用伝言ダイヤル」を提供しています。利用にあたっては「**171**」をダイヤルし、利用ガイダンスにしたがって伝言の録音・再生を行ってください。一般加入電話、公衆電話、携帯電話、PHSから利用できます。



▶ わが家の防災メモ

家族で話し合い、確認しておき、いざというときに役立てましょう。

避難場所(家族の集合場所)	家の中の安全な場所
非常持出袋の場所	避難・救助用品の場所